

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3873500536
法人名	有限会社 すまいる
事業所名	グループホーム すまいる
所在地	伊予郡砥部町北川毛1442番地16
自己評価作成日	平成 25 年 10 月 20 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 25 年 11 月 26 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の気持ちに寄り添い、安心して過して頂ける環境作りやコミュニケーションを大切にしています。</li> <li>・自然豊かな土地柄である為、季節感を感じれるよう、特に夏場は家庭菜園を作ったり、少しの時間でも屋外に出るようにしています。</li> <li>・体調に合わせ、生活リハビリになるようなケアを毎日しています。</li> </ul>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所はのどかな高台にあり、窓から季節の移り変わりなどの景色を眺めることができる。利用者の介護度は上がりつつあるが、理念の「自分が住みたい場所」づくり達成のために管理者と職員は、理念とケア目標をいつも心に止め、初心を忘れず原点に戻り、利用者が安心できる空間を提供できるよう支援を続けている。職員同士の年齢差はあるが良好な関係づくりができており、和やかな雰囲気支援をしている。利用者一人ひとりの思いを尊重し、利用者に合わせて支援を考え実践している。管理者は常に職員の研修や研鑽を重ねることができるよう配慮しており、サービスの向上に努めている。また、管理者は、事業所名にもなっている「すまいる」のとおり利用者の笑顔を願ってやまない支援を心がけている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I.理念に基づく運営
- II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含まれます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含まれます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含まれます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム すまいる

(ユニット名) 1F

記入者(管理者)

氏名 池田 正代

評価完了日 平成 25 年 10 月 20 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 「自分が住みたい場所」という理念を掲げ、毎年具体的なケア目標を職員間で話し合っ作り、引継ぎの時にも唱和し、常に念頭において、実践に生かしている。	
			(外部評価) 職員の名札の裏に理念と方針等が書かれており、いつでも初心に戻れるよう確認できるようになっている。管理者は「ここはいいね」「ここにいたい」と言ってもらえる事業所を目指し、利用者が笑顔で生活を送れるよう努力を重ねている。職員は朝の申し送り時に理念を唱和し共有している。また、毎年ケア目標を職員全員で話し合い作成している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地区の祭りや小学校の運動会等、行事への参加をし、地区の一員として暮らす事を心がけている。また、ご近所からおすそ分けを頂いたり、近所のお子さんとの交流もある。事業所自体も町内会の加入や回覧板の持ち回り、清掃活動等の役割分担をしている。	
			(外部評価) 事業所横の池の周りに田畑があり、祖父母と一緒に来た子供たちが訪れることがある。運営推進会議へも参加している地区役員が事業所の良き理解者となっており、「困っていることがあれば、声かけして」と言ってくれている。地域行事に参加したり、秋祭り等には小学生による伊予万歳や獅子舞の訪問があり交流をしている。町内会の清掃や行事にできる限りの協力をしている。また、近隣の老人保健施設の夏祭りには声をかけてもらい、利用者と一緒に参加して交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進委員会のメンバーに在宅で認知症介護されている方もおられ、話を伺ったり、アドバイスさせて頂く機会も増えた。また、地域密着型になってからは、利用者や面会の方もスタッフの顔見知りである事も多くなり、以前より認知症介護の話題や相談を受ける事も多くなっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<p>(自己評価) 議題は行事参加や家族会、感染症や予防接種の勉強会等、様々なテーマで行っている。参加者も地区役員や家族、職員等、出来るだけ多くの参加を呼びかけ、意見交換出来るように努めている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は家族、民生委員、地区役員、町担当者等の参加を得て開催している。家族会や行事に併せて会議を開催する工夫をしている。ケア目標を参加者に説明する時やテーマにより職員も参加をしている。町担当者の意見を参考にしたり、参加者から要望や案を聞くことを会議のテーマとするなど工夫をしている。</p>	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<p>(自己評価) 市町村には定期的な講習会があり、参加している。他に町の派遣事業の相談員が毎月訪問し、利用者の要望を聞いて下さり、担当職員と話し合いを持ったり、町担当課との連絡役となって下さっている。利用者に関する申請手続き等でも、随時、担当課を訪れている。</p> <p>(外部評価) 町担当者は運営推進会議に参加し意見交換をしている。3か月に1回、町のケアマネジャー連絡会に参加し、研修などに参加をしている。利用者の介護認定の更新時等に担当窓口で手続きや相談をして、良好な関係を築いている。生活保護受給の利用者には、県地方局職員が定期的に生活の確認に来ていて。また、月1回介護相談員が訪問し利用者の良き相談相手となっており、普段無口な利用者からの質問や要望を聞くこともできる。</p>	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<p>(自己評価) 玄関、ホールの入り口は夜間の防犯以外には施錠はしておらず、職員の見守りを重視している。また施設内研修や回覧等での資料提供も行き、その意義を高める様、常に話し合いを持つよう努めている。</p> <p>(外部評価) 夜間は防犯面を考え、玄関の施錠をしている。外出しようとする利用者には、センサーや声かけをして見守りながら対応をしている。利用者の安全面を考え、ベッド柵をしたり、車いすでリフトバスに乗車する時に安全ベルトを使用する場合等は、家族に説明して同意を得ている。ベッドからの転倒防止のため、床用のマットを使用し対応した事例もある。できる限り見守りを大切に支援をしている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 年に一度、アンケート調査を実施し、日頃の支援を振り返り、職員会で話し合い、防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 外部研修に出来るだけ参加するようにしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) ご家族には十分な説明、話し合いをし、納得して頂いた上で契約をしている。 契約後改正の加算報酬についても前もって文章にて連絡する等、その都度対処し、納得して頂いており、長期の利用や重度化に伴う料金の負担など、必要に応じてご家族と相談している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者に直接話しを伺ったり、家族の訪問時や家族会の時に、意見を聞ける様、努めている。 遠方の家族とも利用者の状態変化の時には、電話連絡をし、意見や希望を聞いている。 又、運営会や行事参加の時には、アンケートの実施等も行い、今後のケアの参考にしている。  (外部評価) 家族の訪問時に声かけをしてゆっくり意見や要望を聞くように努めた結果、家族から話をしてくれることが多くなった。年2回は家族会を開催して、意見を聞くようにしている。遠方の家族には、ケアプラン変更の電話連絡時などに意見を聞いている。行事の開催時には家族からアンケートをとって意見や要望を把握し、出された意見は反映するように努めている。また、利用者の些細な要望にも対応している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 管理者は職員会で意見や提案を聞く機会を作ったり、出来るだけ現場の声が聞けるよう個別に話かけたりしている。また運営者も個別に話しが出来る様、懇親会や幹部ミーティングを実施し、多くの意見を取り上げ反映出来る様、努めている。  (外部評価) 管理者と職員は話しやすい雰囲気ができており、意見や要望を率直に話すことができる。2か月に1回の職員会や食事会の時に要望を伝えることもでき、職員に管理者から話しかける工夫もしている。出された意見は代表者と話し合い反映できるように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 給与水準については同業他社等と情報交換し、一般水準は確保するよう努めている。 労働時間については、効率の良い仕事をしてもらう為、休憩時間にはゆっくりと気分転換できる様、休憩室等の環境整備も職員の意見を参考に整える努力をしている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修を希望するものについては積極的に受講するよう推奨し、受講費用等の負担は会社にて行っている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 県のグループホーム協会に加入し、そこで行われる相互研修の受講をさせている。人員に余裕が出来れば、色んな事に取り組んで行きたい。	
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) ご本人と直接話したり、仕草、表情や動向を観察しながら、コミュニケーションを多く取る事で、利用者を知る事、自分達を受け入れて頂く事、ホームの生活に馴染んで頂ける様、努力している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ご家族とも面接時や契約時には十分な話し合いを行い、意向を確認しながらケアの方向性を決めて説明している。	
17		○初期対応の見極めと支援サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) アセスメントを行い本人の現状を把握し、医療的なサービスの提供の必要がある場合等は医師と相談の上、外部のサービスも取り入れたり様々なサービス案を検討している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 食事やおやつ等、一緒にテーブルで過ごす時間を大切に、常に寄り添うケアを心がけ、それぞれに出来る事を一緒に行っている。 時に利用者から学ぶ事も沢山あり、利用者もご自分主体の場面設定では、生き生きとした表情が伺える。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時には食事介助や散歩等を一緒に手伝って頂いたり、外出レク時にもお誘いしている。また日常生活の中でご本人が家族さんに関わる言葉や思い出を話されたりした時には、面会時に話しの話題にさせて頂き一緒に過ごしていない時間の距離を埋めて頂けるよう努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 町内の方が多く、利用者同士が幼なじみで、昔話に花が咲いたり、地元のスーパーに買い物に行くと、知り合いやご近所の方に会われ、立ち話をされたり、地区のお祭りや文化祭等行事参加の際には、親戚や昔の友人に声をかけて頂き、笑顔でお話されている。	
			(外部評価) 調査日に利用者の友人の訪問があり、職員は温かく見守っている。地元の利用者が多いため、外出先で顔見知りの方に出会うことも多く、あいさつや話をするなど関係の継続に努めている。利用者は、買い物時に友人など「誰かに逢えるかもしれない」という楽しみもある。利用者同士の会話の中で「実は親戚だった」という利用者もいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 皆で一つのテーブルに集って話しをする機会を作ったり職員が橋渡しをする事で、普段あまりお話をされない方でも楽しく会話されている。また個人の性格を把握し、相性も考慮してテーブルの配置等も気をつける事で、それぞれが出来る事を助け合い生活されている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) ご家庭の事情で住み替えが必要となった方には移り住む先の関係者と今までの生活状況を詳しく説明する機会を持ったり、ご自宅に戻られた方には、電話連絡等でその後の様子を伺ったり、少しでも相談に乗れる様努めている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用者との会話や仕草の中から、本人の意向や希望を把握し、出来る限り希望に添える様、ケアカンファレンスや申し送りを行っている。意思疎通が難しい方でも家族訪問時にお話を伺い、また、その方のちょっとした表情変化も見逃さないようにして、職員間で情報交換している。 (外部評価) 常に利用者の表情や日々の会話から思いや意向を読み取るように努めている。利用者が遠慮をしないよう声かけや見守りをして、居室で過ごしたい利用者にはゆっくり休んでもらうなど、一人ひとりに合わせた支援をしている。散歩に行きたいという利用者の希望に沿うなど、利用者本位のサービスが提供できるよう支援をしており、職員は多忙さを前面に出さないように対応している。リンパマッサージなどの生活リハビリにも力を入れ、利用者の生活の維持に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 日頃の会話の中で本人の生活歴が聞けるような働きかけをしたり、家族面会時には出来るだけ多くの情報を頂ける様、話し合いを十分に行っている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 時間の許す限り寄り添い、心身状態の変化を見逃さない様、努めている。 また、個別の介護記録や健康管理表に記録し、スタッフ全員が目を通す事で、常に情報交換出来るようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 介護計画作成時には、本人や家族の希望も事前にお聞きし、担当スタッフによる計画案を職員会等で話し合い、ケアにあたっている。 モニタリングに関しては、状態に応じて1ヶ月、3ヶ月、6ヶ月と定期的にスタッフ全員で行い、変化があれば見直しを行っている。 (外部評価) 利用者毎の担当職員が話し合いをして原案を作成し、職員全員で話し合い介護計画を作成している。新規の利用者は1か月でモニタリングを行い、その後、3か月に1回見直しをしている。入居前に事業所の介護方針を説明し、利用者や家族が望むケアを計画に反映している。職員は介護計画をいつも再確認でき、計画に沿った支援に努めている。また、介護記録には利用者の会話も残し、夜間の出来事は色を変え分かりやすく記録している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の記録や情報交換ノートの活用により生活、身体状況を把握し、ケアカンファレンスを定期的に行い、職員間で共有する事で見直しに活かす事が出来ていると思う。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 在宅マッサージやリハビリ通院の介助、衣料品や食料品の買物に同行したり、時には外食等本人の要望や身体的状況に応じて多機能化に取り組めるよう努力している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 行きつけの理美容院や衣料品店、外食等、本人の要望や身体的状況に応じて支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) ホームには協力医療機関の担当の主治医がいる為、本人及 び家族に事前に説明し、納得して入所して頂いているが、 協力医療機関が町内にある為、殆どどの利用者がその医療 機関をかかりつけ医とされている。月2回の往診と緊急時 にも対応して頂け、常日頃から身体状況を把握して下さっ ているので、ご家族も安心されている。協力医療機関に受 診したい診療科が無い場合は、本人や家族の希望を優先し ている。	
			(外部評価) ほとんどの利用者は協力医をかかりつけ医としている。受 診は職員が同行し、受診結果は家族に報告して共有してい る。また、協力医が月2回往診をして、利用者の健康管理 を充実させている。リハビリの時に受診も可能で、歯科の 訪問診療の対応もある。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 協力医療機関の看護師は、往診時の同行や、受診時のサ ポート等、利用者とも顔見知りで付き合いも長い為、状態 もよく把握してくださっており、職員も色々と相談に乗っ て頂いている。	
			(外部評価)	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相 談に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 協力医療機関が総合病院であり、入院の殆どのケースが協 力機関への入院の為これまでに日常的にも情報交換や相談 が出来ている。	
			(外部評価)	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 看取りに関しては、ご本人、家族の意向を、出来る限り尊 重したいと考えております。 ご家族とも、入所時以外にも状態に応じて話し合う機会を 持ち、主治医との相談体制も出来ている。	
			(外部評価) 看取りに関する指針を作成している。看取りの経験はない が、利用者が重度化した場合は、家族に相談し訪問診療や 入院などを判断してもらうよう対応をしている。入居時に 事業所としてできることを利用者や家族に説明し、必要に 応じて話し合いをしている。事業所では医療行為ができな いことと、利用者が口から食べることが不可能になり点滴 治療になると、入院へと移行する方針となっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 定期的ではないが、年に1、2回施設内研修を行ったり、外部研修の参加を実施している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年に2回ほど消防署にご協力して頂き、ご家族や地元住民の方にも参加頂いて、防火訓練や非難訓練を行っている。また地域消防団、地区役員、ご近所の方へも常に協力をお願いをし、承諾を頂いている。  (外部評価) 夜間を想定して利用者と一緒に避難訓練を実施している。あらかじめ訓練の予定を伝え、利用者は進んで訓練に参加している。訓練には地域の民生委員などの参加協力を得ている。火を出さないようにすることを第一に考え、もし出火した場合は初期消火を一番に考えている。また、災害時に2階の利用者を階段からどのようにスムーズに降ろせるかを検討している。	夜間には職員だけの避難誘導には限界があり、緊急時の対策や地域とのつながりを活かした協力体制が得られるような取組みを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 言葉かけや口調には十分注意し、相手の気持ちになって考えながらの対応を心がけている。 たとえば、基本的な事ですが、子供扱いしない、目線を合わせて話すなど、威圧的にならないよう注意したり、自力でゆっくり食事する利用者を急かす事なく見守ったり、トイレ誘導を小声でさりげなく行ったり、着替えやトイレ時の介助の際、ドアをきちんと閉める等、プライバシーに十分配慮するようにしている。  (外部評価) トイレ誘導の声かけや着替え時には、他の利用者に分からないよう努めている。職員は早口にならないよう丁寧に話すよう心がけ、口調がぶっきらぼうにならないようにしたり、聞こえやすい耳の方に話しかけるなど配慮している。 職員は利用者を上から目線でみないように気をつけており、車いすの利用者と会話する時には、床に膝をつけて同じ目線で話すよう心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 顔の表情やいつもと違う行動、言動が見受けられる場合、寄り添い、話を聞き、本人の希望に添える様にしている。朝の更衣時に本人の希望を優先できるように、声かけを行ったり、買い物同行時も何が食べたいかを尋ねる等、出来るだけご本人が自己決定出来るような場面設定を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 入浴などは、設備上の問題で日時、時間帯を制限する事はあるが、外気浴や散歩などは本人の希望、生活リズム、ペースに合わせて柔軟に対応出来る様にしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 起床時の整髪や入浴時の爪や耳垢の手入れ等、気をつけている。また、洋服等汚れ物をさりげなく交換したり、本人の好みを取り入れ、季節、天候に合わせた洋服を本人が選べるよう支援している。 それぞれに、気に入った化粧品や装飾品等も使用しておられる。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 季節を感じさせる旬の物を取り入れ、盛り付けも工夫している。献立を一緒に考えたり、食事の支度を手伝って頂いたりしている。ADLに合わせた食事形態の工夫をしたり、食器、スプーン等も個々により様々で、ご自分の力で少しでも食べれるように支援している。 また、食事中は好きな音楽を聴きながら、ゆったりした環境の中で、職員や他の利用者とも会話を楽しめる様、橋渡しをするなどの支援に努めている。	
			(外部評価) 利用者の希望を取り入れて職員が献立を立て、利用者と一緒に買い物にも行っている。月に20日間は、昼間ユニット毎に調理専門の職員が調理をしてくれ、職員は利用者と接する時間を大切に支援している。キッチンで作られる料理は、おいしそうな香りが空間を包み、利用者は食事を楽しみにしている。きざみ、ミキサー食、小さなおにぎりサイズに工夫をするなど、利用者に合わせて調理形態にしている。スプーンなどに福祉用具を使用し、利き手を替えて一人で食べれるようになった利用者もいる。また、片付けなどできることを一緒に手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 個々の状態に合わせた食事、水分の適正量を把握し、体調に合わせて、職員同士で話しあい、食事、水分の増減を行っている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、個々の健康状態、能力に応じて見守り、介助をしている。定期的に義歯洗浄を行い、舌ブラシやガーゼ、歯磨きティッシュを利用したり、磨き残しなどのチェック及び口腔状態の観察に留意している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価) 排泄チェック表の活用、個々の排泄パターンを把握し、座位が取れる方は時間を見て声かけやトイレ誘導を行っている。オムツ使用の方でも、排尿量や便秘対策で、トイレに座って頂き、介助する事もある。</p> <p>(外部評価) 立位の可能な利用者には、常にトイレに座って排泄をしてもらうよう心がけている。病院から入居した利用者がオムツをはずし、2人体制で介助しトイレで排泄できるようになった事例や、オムツから日中にはリハビリパンツを使用するようになった利用者もいる。共有空間の畳スペースや手すりを利用して、利用者の苦痛にならない程度のリハビリを行い、自立支援につなげている。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価) なるべく薬に頼らず、自然な排便が出来るよう、水分を多く摂って頂き、散歩などの運動を促している。また、日頃からお茶寒天やヨーグルトなどの乳酸菌の物を提供している。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価) 設備上の問題から、曜日や時間帯は決まっているが、入浴の順番を固定せず、本人の希望を聞いたり、体調に合わせて入浴の順番や入浴日を変更している。入浴中もご本人が安心出来る様、職員が声かけや会話に気を配っている。また入浴剤を使用したり、季節感を味わえる様、ゆず湯やみかん湯にしたりと工夫している。</p> <p>(外部評価) 浴室には個浴槽と昇降型特殊浴槽があり、車いすの利用者でもゆっくり肩まで入浴することができ、喜ばれている。入浴が苦手な利用者には、入浴前に近隣を散歩し、「汗をかいたので着替えましょう」と声かけをしたり、時間をずらしたり、同性介助などの対応の工夫をしている。事業所が高台にあり、水道圧に差があり入浴時間に制限がある。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価) 居室の温度、明るさの調節をし、使い慣れた寝具を使用したり、パジャマへの更衣を促し、声かけや介助をしている。寝る前には暖かい牛乳などの飲み物の提供や、日中はリハビリなどをし、生活のリズムを作るよう支援し、個々に合わせた睡眠の確保に努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 処方箋を職員全員が確認し、連絡ノートの活用により変更等の確認が出来るようにしている。担当医師とも日常的に連絡を取り、利用者によって薬の形状を変えて頂くなど、飲みやすくしている。誤薬や飲み忘れが無い様、職員間で確認をしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 声かけや会話の中から生活歴の情報を得て、機能や能力に応じて一人一人に役割が出来るよう、支援している。今ではそれぞれに役割も出来ており、家事や新聞取りなど、ご本人から声をかけて下さっている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) ほぼ毎日、買い物、外気浴に出かけている。また希望に添って外食やドライブ、地域行事への参加をする為の計画を立て、外出している。 家族も協力的で一緒に食事に出かけたり、外泊される利用者もおられる。 (外部評価) 日頃から近隣の公園まで散歩したり、池の周りで鳥の姿を見るなど気分転換できるようにしている。利用者は順番に食材の買い物に出かけている。車いすの利用者にも、計画を立てドライブなど外出できるよう支援している。また、病院ヘリハビリにも行けるように対応している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 個々の管理能力の問題でご家族と相談、了承の上で事務所預かりとさせて頂いている方が多いが、希望により買物時、外出レク時は本人にお金を渡したり、立替の小遣いを持って頂き買物をして頂くよう支援している。本人が管理できる方は、買い物同行時など、嗜好品を購入され、喜ばれている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 希望に応じてホームの電話で取次ぎを行っている。ホーム内には、専用の携帯電話もあり、居室でゆっくり話せるようご家族にも説明し支援している。能力に応じて手紙や年賀はがきを出したりなどの意欲を引き出せるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 温度、湿度、音の大きさ、明るさに気をつけたり、毎日の掃除にて清潔な環境作りを心がけている。居間の窓からは庭や外の景色が見え、季節感が味わえる。台所の調理の音や臭いで時間経過を感じて頂いたり、手作りの壁画や写真、季節の花を生けることで居心地よく過ごして頂ける工夫をしている。</p> <p>(外部評価) 高台にある事業所から三坂峠が見え、季節の移り変わりなどの風景を眺めることができる。事業所内は清掃が行き届き、清潔感あふれ、ソファや畳スペースなど利用者は思い思いの場所で居心地良く過ごすことができる。事業所から大きく見える障子山の景色は利用者は見慣れてはいるが、自宅と遠く離れていない安心感につながっている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) ソファや長椅子を配置し、畳敷きのコーナーもあり、それぞれが気の合う仲間と思い思いの場所でくつろいで過ごせる様にしている。食事のテーブル席も、利用者同士の相性も考慮し、席次を考え配置している。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 家具や仏壇など、その人の馴染みのある物を持ちこまれ使用されている。 居室の湿度や温度、明るさなどにも気を配り、毎日清掃を行い、清潔な環境で生活出来る様にしている。</p> <p>(外部評価) 居室は毎日水拭きがされほこり1つなく衛生的で、無臭を心がけており、利用者は居心地良く過ごすことができる。衣服は季節毎に、家族の協力を得て入れ替えをして整理されている。居室には使い慣れた物や大切な物を持ち込むことができ、仏壇を持ち込まれている利用者もいる。力作の習字が飾られている居室もあり、利用者一人ひとりがくつろげる空間づくりをしている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 居室の表札やトイレの表示、個々の自立度、見当識にも配慮している。また必要場所の手摺りの設置やL字ベッド柵、椅子や机の高さ、足置き代など、個々の能力に応じて工夫している。</p>	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3873500536
法人名	有限会社 すまいる
事業所名	グループホーム すまいる
所在地	伊予郡砥部町北川毛1442番地16
自己評価作成日	平成 25 年 10 月 20 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 25 年 11 月 26 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の気持ちに寄り添い、安心して過して頂ける環境作りやコミュニケーションを大切にしています。</li> <li>・自然豊かな土地柄である為、季節感を感じれるよう、特に夏場は家庭菜園を作ったり、少しの時間でも屋外に出るよにしています。</li> <li>・体調に合わせ、生活リハビリになるようなケアを毎日しています。</li> </ul>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所はのどかな高台にあり、窓から季節の移り変わりなどの景色を眺めることができる。利用者の介護度は上がりつつあるが、理念の「自分が住みたい場所」づくり達成のために管理者と職員は、理念とケア目標をいつも心に止め、初心を忘れず原点に戻り、利用者が安心できる空間を提供できるよう支援を続けている。職員同士の年齢差はあるが良好な関係づくりができており、和やかな雰囲気支援をしている。利用者一人ひとりの思いを尊重し、利用者に合わせて支援を考え実践している。管理者は常に職員の研修や研鑽を重ねることができるよう配慮しており、サービスの向上に努めている。また、管理者は、事業所名にもなっている「すまいる」のとおり利用者の笑顔を願ってやまない支援を心がけている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム すまいる

(ユニット名) 2F

記入者(管理者)  
氏名 池田 正代

評価完了日 平成 25 年 10 月 20 日

(別表第1)

## 自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 「自分が住みたい場所」という理念を掲げ、毎年具体的なケア目標を職員間で話し合っ作り、引継ぎの時にも唱和し、常に念頭において、実践に生かしている。</p> <p>(外部評価) 職員の名札の裏に理念と方針等が書かれており、いつでも初心に戻れるよう確認できるようになっている。管理者は「ここはいいね」「ここにいたい」と言ってもらえる事業所を目指し、利用者が笑顔で生活を送れるよう努力を重ねている。職員は朝の申し送り時に理念を唱和し共有している。また、毎年ケア目標を職員全員で話し合い作成している。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地区の祭りや小学校の運動会等、行事への参加をし、地区の一員として暮らす事を心がけている。また、ご近所からおすそ分けを頂いたり、近所のお子さんとの交流もある。事業所自体も町内会の加入や回覧板の持ち回り、清掃活動等の役割分担をしている。</p> <p>(外部評価) 事業所横の池の周りに田畑があり、祖父母と一緒に来た子供たちが訪れることがある。運営推進会議へも参加している地区役員が事業所の良き理解者となっており、「困っていることがあれば、声かけて」と言ってくれている。地域行事に参加したり、秋祭り等には小学生による伊予万歳や獅子舞の訪問があり交流をしている。町内会の清掃や行事にできる限りの協力をしている。また、近隣の老人保健施設の夏祭りには声をかけてもらい、利用者と一緒に参加して交流を深めている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 運営推進委員会のメンバーに在宅で認知症介護されている方もおられ、話を伺ったり、アドバイスさせて頂く機会も増えた。また、地域密着型になってからは、利用者や面会の方もスタッフの顔見知りである事も多くなり、以前より認知症介護の話題や相談を受ける事も多くなっている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 議題は行事参加や家族会、感染症や予防接種の勉強会等、 様々なテーマで行っている。参加者も地区役員や家族、職 員等、出来るだけ多くの参加を呼びかけ、意見交換出来る ように努めている。	
			(外部評価) 運営推進会議は家族、民生委員、地区役員、町担当者等の 参加を得て開催している。家族会や行事に併せて会議を開 催する工夫をしている。ケア目標を参加者に説明する時や テーマにより職員も参加をしている。町担当者の意見を参 考にしたり、参加者から要望や案を聞くことを会議のテー マとするなど工夫をしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くよう に取り組んでいる	(自己評価) 市町村には定期的な講習会があり、参加している。他に町 の派遣事業の相談員が毎月訪問し、利用者の要望を聞いて 下さり、担当職員と話し合いを持ったり、町担当課との連 絡役となって下さっている。 利用者に関する申請手続き等でも、随時、担当課を訪れて いる。	
			(外部評価) 町担当者は運営推進会議に参加し意見交換をしている。3 か月に1回、町のケアマネジャー連絡会に参加し、研修な どに参加をしている。利用者の介護認定の更新時等に担当 窓口で手続きや相談をして、良好な関係を築いている。生 活保護受給の利用者には、県地方局職員が定期的に生活の 確認に来ている。また、月1回介護相談員が訪問し利用者 の良き相談相手となっており、普段無口な利用者からの質 問や要望を聞くこともできる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 玄関、ホールの入り口は夜間の防犯以外には施錠はしてお らず、職員の見守りを重視している。 また施設内研修や回覧等での資料提供も行い、その意義を 高める様、常に話し合いを持つよう努めている。	
			(外部評価) 夜間は防犯面を考え、玄関の施錠をしている。外出しよう とする利用者には、センサーや声かけをして見守りながら 対応をしている。利用者の安全面を考え、ベッド柵をした り、車いすでリフトバスに乗車する時に安全ベルトを使用 する場合等は、家族に説明して同意を得ている。ベッドか らの転倒防止のため、床用のマットを使用し対応した事例 もある。できる限り見守りを大切に支援をしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 年に一度、アンケート調査を実施し、日頃の支援を振り返り、職員会で話し合い、防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 外部研修に出来るだけ参加するようにしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) ご家族には十分な説明、話し合いをし、納得して頂いた上で契約をしている。 契約後改正の加算報酬についても前もって文章にて連絡する等、その都度対処し、納得して頂いており、長期の利用や重度化に伴う料金の負担など、必要に応じてご家族と相談している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者に直接話しを伺ったり、家族の訪問時や家族会の時に、意見を聞ける様、努めている。 遠方の家族とも利用者の状態変化の時には、電話連絡をし、意見や希望を聞いている。 又、運営会や行事参加の時には、アンケートの実施等も行い、今後のケアの参考にしている。  (外部評価) 家族の訪問時に声かけをしてゆっくり意見や要望を聞くように努めた結果、家族から話をしてくれることが多くなった。年2回は家族会を開催して、意見を聞くようにしている。遠方の家族には、ケアプラン変更の電話連絡時などに意見を聞いている。行事の開催時には家族からアンケートをとって意見や要望を把握し、出された意見は反映するように努めている。また、利用者の些細な要望にも対応している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 管理者は職員会で意見や提案を聞く機会を作ったり、出来るだけ現場の声が聞けるよう個別に話かけたりしている。また運営者も個別に話しが出来る様、懇親会や幹部ミーティングを実施し、多くの意見を取り上げ反映出来る様、努めている。</p> <p>(外部評価) 管理者と職員は話しやすい雰囲気ができており、意見や要望を率直に話すことができる。2か月に1回の職員会や食事会の時に要望を伝えることもでき、職員に管理者から話しかける工夫もしている。出された意見は代表者と話し合い反映できるように努めている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 給与水準については同業他社等と情報交換し、一般水準は確保するよう努めている。労働時間については、効率の良い仕事をしてもらう為、休憩時間にはゆっくりと気分転換できる様、休憩室等の環境整備も職員の意見を参考に整える努力をしている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 研修を希望するものについては積極的に受講するよう推奨し、受講費用等の負担は会社にて行っている。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 県のグループホーム協会に加入し、そこで行われる相互研修の受講をさせている。人員に余裕が出来れば、色んな事に取り組んで行きたい。</p>	
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) ご本人と直接話したり、仕草、表情や動向を観察しながら、コミュニケーションを多く取る事で、利用者を知る事、自分達を受け入れて頂く事、ホームの生活に馴染んで頂ける様、努力している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ご家族とも面接時や契約時には十分な話し合いを行い、意向を確認しながらケアの方向性を決めて説明している。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) アセスメントを行い本人の現状を把握し、医療的なサービスの提供の必要がある場合等は医師と相談の上、外部のサービスも取り入れたり様々なサービス案を検討している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 食事やおやつ等、一緒にテーブルで過ごす時間を大切に、常に寄り添うケアを心がけ、それぞれに出来る事を一緒に行っている。 時に利用者から学ぶ事も沢山あり、利用者もご自分主体の場面設定では、生き生きとした表情が伺える。	
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時には食事介助や散歩等を一緒に手伝って頂いたり、外出レク時にもお誘いしている。また日常生活の中でご本人が家族さんに関わる言葉や思い出を話されたりした時には、面会時に話しの話題にさせて頂き一緒に過ごしていない時間の距離を埋めて頂けるよう努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 町内の方が多く、利用者同士が幼なじみで、昔話に花が咲いたり、地元のスーパーに買い物に行くと、知り合いやご近所の方に会われ、立ち話をされたり、地区のお祭りや文化祭等行事参加の際には、親戚や昔の友人に声をかけて頂き、笑顔でお話されている。  (外部評価) 調査日に利用者の友人の訪問があり、職員は温かく見守っている。地元の利用者が多いため、外出先で顔見知りの方に出会うことも多く、あいさつや話をするなど関係の継続に努めている。利用者は、買い物時に友人など「誰かに逢えるかもしれない」という楽しみもある。利用者同士の会話の中で「実は親戚だった」という利用者もいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 皆で一つのテーブルに集って話しをする機会を作ったり職員が橋渡しをする事で、普段あまりお話をされない方でも楽しく会話されている。また個人の性格を把握し、相性も考慮してテーブルの配置等も気をつける事で、それぞれが出来事を助け合い生活されている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) ご家庭の事情で住み替えが必要となった方には移り住む先の関係者と今までの生活状況を詳しく説明する機会を持ったり、ご自宅に戻られた方には、電話連絡等でその後の様子を伺ったり、少しでも相談に乗れる様努めている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用者との会話や仕草の中から、本人の意向や希望を把握し、出来る限り希望に添える様、ケアカンファレンスや申し送りを行っている。意思疎通が難しい方でも家族訪問時にお話を伺い、また、その方のちょっとした表情変化も見逃さないようにして、職員間で情報交換している。 (外部評価) 常に利用者の表情や日々の会話から思いや意向を読み取るように努めている。利用者が遠慮をしないよう声かけや見守りをして、居室で過ごしたい利用者にはゆっくり休んでもらうなど、一人ひとりに合わせた支援をしている。散歩に行きたいという利用者の希望に沿うなど、利用者本位のサービスが提供できるよう支援をしており、職員は多忙さを前面に出さないように対応している。リンパマッサージなどの生活リハビリにも力を入れ、利用者の生活の維持に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 日頃の会話の中で本人の生活歴が聞けるような働きかけをしたり、家族面会時には出来るだけ多くの情報を頂ける様、話し合いを十分に行っている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 時間の許す限り寄り添い、心身状態の変化を見逃さない様、努めている。 また、個別の介護記録や健康管理表に記録し、スタッフ全員が目を通す事で、常に情報交換出来るようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 介護計画作成時には、本人や家族の希望も事前にお聞きし、担当スタッフによる計画案を職員会等で話し合い、ケアにあたっている。 モニタリングに関しては、状態に応じて1ヶ月、3ヶ月、6ヶ月と定期的にスタッフ全員で行い、変化があれば見直しを行っている。 (外部評価) 利用者毎の担当職員が話し合いをして原案を作成し、職員全員で話し合い介護計画を作成している。新規の利用者は1か月でモニタリングを行い、その後、3か月に1回見直しをしている。入居前に事業所の介護方針を説明し、利用者や家族が望むケアを計画に反映している。職員は介護計画をいつも再確認でき、計画に沿った支援に努めている。また、介護記録には利用者の会話も残し、夜間の出来事は色を変え分かりやすく記録している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の記録や情報交換ノートを活用により生活、身体状況を把握し、ケアカンファレンスを定期的に行い、職員間で共有する事で見直しに活かす事が出来ていると思う。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 在宅マッサージやリハビリ通院の介助、衣料品や食料品の買物に同行したり、時には外食等本人の要望や身体的状況に応じて多機能化に取り組めるよう努力している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 行きつけの理美容院や衣料品店、外食等、本人の要望や身体的状況に応じて支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) ホームには協力医療機関の担当の主治医がいる為、本人及 び家族に事前に説明し、納得して入所して頂いているが、 協力医療機関が町内にある為、殆どどの利用者がその医療 機関をかかりつけ医とされている。月2回の往診と緊急時 にも対応して頂け、常日頃から身体状況を把握して下さっ ているので、ご家族も安心されている。協力医療機関に受 診したい診療科が無い場合は、本人や家族の希望を優先し ている。 (外部評価) ほとんどの利用者は協力医をかかりつけ医としている。受 診は職員が同行し、受診結果は家族に報告して共有してい る。また、協力医が月2回往診をして、利用者の健康管理 を充実させている。リハビリの時に受診も可能で、歯科の 訪問診療の対応もある。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 協力医療機関の看護師は、往診時の同行や、受診時のサ ポート等、利用者とも顔見知りで付き合いも長い為、状態 もよく把握してくださっており、職員も色々と相談に乗っ て頂いている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相 談に努めている。または、そうした場合に 備えて病院関係者との関係づくりを行っ ている。	(自己評価) 協力医療機関が総合病院であり、入院の殆どのケースが協 力機関への入院の為これまでに日常的にも情報交換や相談 が出来ている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につ いて、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 看取りに関しては、ご本人、家族の意向を、出来る限り尊 重したいと考えております。 ご家族とも、入所時以外にも状態に応じて話し合う機会を 持ち、主治医との相談体制も出来ている。 (外部評価) 看取りに関する指針を作成している。看取りの経験はない が、利用者が重度化した場合は、家族に相談し訪問診療や 入院などを判断してもらうよう対応をしている。入居時に 事業所としてできることを利用者や家族に説明し、必要に 応じて話し合いをしている。事業所では医療行為ができな いことと、利用者が口から食べることが不可能になり点滴 治療になると、入院へと移行する方針となっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 定期的ではないが、年に1、2回施設内研修を行ったり、外部研修の参加を実施している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年に2回ほど消防署にご協力して頂き、ご家族や地元住民の方にも参加頂いて、防火訓練や非難訓練を行っている。また地域消防団、地区役員、ご近所の方へも常に協力をお願いをし、承諾を頂いている。  (外部評価) 夜間を想定して利用者と一緒に避難訓練を実施している。あらかじめ訓練の予定を伝え、利用者は進んで訓練に参加している。訓練には地域の民生委員などの参加協力を得ている。火を出さないようにすることを第一に考え、もし出火した場合は初期消火を一番に考えている。また、災害時に2階の利用者を階段からどのようにスムーズに降ろせるかを検討している。	夜間には職員だけの避難誘導には限界があり、緊急時の対策や地域とのつながりを活かした協力体制が得られるような取組みを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 言葉かけや口調には十分注意し、相手の気持ちになって考えながらの対応を心がけている。 たとえば、基本的な事ですが、子供扱いしない、目線を合わせて話すなど、威圧的にならないよう注意したり、自力でゆっくり食事する利用者を急かす事なく見守ったり、トイレ誘導を小声でさりげなく行ったり、着替えやトイレ時の介助の際、ドアをきちんと閉める等、プライバシーに十分配慮するようにしている。  (外部評価) トイレ誘導の声かけや着替え時には、他の利用者に分らないよう努めている。職員は早口にならないよう丁寧に話すよう心がけ、口調がぶっきらぼうにならないようにしたり、聞こえやすい耳の方に話しかけるなど配慮している。職員は利用者を上から目線でみないように気をつけており、車いすの利用者と会話する時には、床に膝をつけて同じ目線で話すよう心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 顔の表情やいつもと違う行動、言動が見受けられる場合、寄り添い、話を聞き、本人の希望に添える様になっている。朝の更衣時に本人の希望を優先できるように、声かけを行ったり、買い物同行時も何が食べたいかを尋ねる等、出来るだけ本人が自己決定出来るような場面設定を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 入浴などは、設備上の問題で日時、時間帯を制限する事はあるが、外気浴や散歩などは本人の希望、生活リズム、ペースに合わせて柔軟に対応出来る様にしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 起床時の整髪や入浴時の爪や耳垢の手入れ等、気をつけている。また、洋服等汚れ物をさりげなく交換したり、本人の好みを取り入れ、季節、天候に合わせた洋服を本人が選べるよう支援している。 それぞれに、気に入った化粧品や装飾品等も使用しておられる。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 季節を感じさせる旬の物を取り入れ、盛り付けも工夫している。献立を一緒に考えたり、食事の支度を手伝って頂いたりしている。ADLに合わせた食事形態の工夫をしたり、食器、スプーン等も個々により様々で、ご自分の力で少しでも食べれるように支援している。 また、食事中は好きな音楽を聴きながら、ゆったりした環境の中で、職員や他の利用者とも会話を楽しめる様、橋渡しをするなどの支援に努めている。	
			(外部評価) 利用者の希望を取り入れて職員が献立を立て、利用者と一緒に買い物にも行っている。月に20日間は、昼間ユニット毎に調理専門の職員が調理をしてくれ、職員は利用者と接する時間を大切に支援している。キッチンで作られる料理は、おいしそうな香りが空間を包み、利用者は食事を楽しみにしている。さざみ、ミキサー食、小さなおにぎりサイズに工夫をするなど、利用者に合わせて調理形態にしている。スプーンなどに福祉用具を使用し、利き手を替えて一人で食べれるようになった利用者もいる。また、片付けなどできることを一緒に手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 個々の状態に合わせた食事、水分の適正量を把握し、体調に合わせて、職員同士で話しあい、食事、水分の増減を行っている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、個々の健康状態、能力に応じて見守り、介助をしている。定期的に義歯洗浄を行い、舌ブラシやガーゼ、歯磨きティッシュを利用したり、磨き残しなどのチェック及び口腔状態の観察に留意している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価)</p> <p>排泄チェック表の活用、個々の排泄パターンを把握し、座位が取れる方は時間を見て声かけやトイレ誘導を行っている。オムツ使用の方でも、排尿量や便秘対策で、トイレに座って頂き、介助する事もある。</p> <p>(外部評価)</p> <p>立位の可能な利用者には、常にトイレに座って排泄をしてもらうよう心がけている。病院から入居した利用者がオムツをはずし、2人体制で介助しトイレで排泄できるようになった事例や、オムツから日中にはリハビリパンツを使用するようになった利用者もいる。共有空間の畳スペースや手すりを利用して、利用者の苦痛にならない程度のリハビリを行い、自立支援につなげている。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>なるべく薬に頼らず、自然な排便が出来るよう、水分を多く摂って頂き、散歩などの運動を促している。また、日頃からお茶寒天やヨーグルトなどの乳酸菌の物を提供しています。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価)</p> <p>設備上の問題から、曜日や時間帯は決まっているが、入浴の順番を固定せず、本人の希望を聞いたり、体調に合わせて入浴の順番や入浴日を変更している。入浴中もご本人が安心出来る様、職員が声かけや会話に気を配っている。また入浴剤を使用したり、季節感を味わえる様、ゆず湯やみかん湯にしたりと工夫している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>浴室には個浴槽と昇降型特殊浴槽があり、車いすの利用者でもゆっくり肩まで入浴することができ、喜ばれている。入浴が苦手な利用者には、入浴前に近隣を散歩し、「汗をかいたので着替えましょう」と声かけをしたり、時間をずらしたり、同性介助などの対応の工夫をしている。事業所が高台にあり、水道圧に差があり入浴時間に制限がある。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価)</p> <p>居室の温度、明るさの調節をし、使い慣れた寝具を使用したり、パジャマへの更衣を促し、声かけや介助をしている。寝る前には暖かい牛乳などの飲み物の提供や、日中はリハビリなどをし、生活のリズムを作るよう支援し、個々に合わせた睡眠の確保に努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 処方箋を職員全員が確認し、連絡ノートの活用により変更等の確認が出来るようにしている。担当医師とも日常的に連絡を取り、利用者によって薬の形状を変えて頂くなど、飲みやすくしている。誤薬や飲み忘れが無い様、職員間で確認をしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 声かけや会話の中から生活歴の情報を得て、機能や能力に応じて一人一人に役割が出来るよう、支援している。今ではそれぞれに役割も出来ており、家事や新聞取りなど、ご本人から声をかけて下さっている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) ほぼ毎日、買い物、外気浴に出かけている。また希望に添って外食やドライブ、地域行事への参加をする為の計画を立て、外出している。 家族も協力的で一緒に食事に出かけたり、外泊される利用者もおられる。 (外部評価) 日頃から近隣の公園まで散歩したり、池の周りで鳥の姿を見るなど気分転換できるようにしている。利用者は順番に食材の買い物に出かけている。車いすの利用者にも、計画を立てドライブなど外出できるよう支援している。また、病院へリハビリにも行けるように対応している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 個々の管理能力の問題でご家族と相談、了承の上で事務所預かりとさせて頂いている方が多いが、希望により買物時、外出レク時は本人にお金を渡したり、立替の小遣いを持って頂き買物をして頂くよう支援している。本人が管理できる方は、買い物同行時など、嗜好品を購入され、喜ばれている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 希望に応じてホームの電話で取次ぎを行っている。ホーム内には、専用の携帯電話もあり、居室でゆっくり話せるようご家族にも説明し支援している。能力に応じて手紙や年賀はがきを出したりなどの意欲を引き出せるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 温度、湿度、音の大きさ、明るさに気をつけたり、毎日の掃除にて清潔な環境作りを心がけている。居間の窓からは庭や外の景色が見え、季節感が味わえる。台所の調理の音や臭いで時間経過を感じて頂いたり、手作りの壁画や写真、季節の花を生けることで居心地よく過ごして頂ける工夫をしている。</p> <p>(外部評価) 高台にある事業所から三坂峠が見え、季節の移り変わりなどの風景を眺めることができる。事業所内は清掃が行き届き、清潔感あふれ、ソファや畳スペースなど利用者は思い思いの場所で居心地良く過ごすことができる。事業所から大きく見える障子山の景色は利用者は見慣れてはいるが、自宅と遠く離れていない安心感につながっている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) ソファや長椅子を配置し、畳敷きのコーナーもあり、それぞれが気の合う仲間と思い思いの場所でくつろいで過ごせる様にしている。食事のテーブル席も、利用者同士の相性も考慮し、席次を考え配置している。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 家具や仏壇など、その人の馴染みのある物を持ちこまれ使用されている。 居室の湿度や温度、明るさなどにも気を配り、毎日清掃を行い、清潔な環境で生活出来る様にしている。</p> <p>(外部評価) 居室は毎日水拭きがされほこり1つなく衛生的で、無臭を心がけており、利用者は居心地良く過ごすことができる。衣服は季節毎に、家族の協力を得て入れ替えをして整理されている。居室には使い慣れた物や大切な物を持ち込むことができ、仏壇を持ち込まれている利用者もいる。力作の習字が飾られている居室もあり、利用者一人ひとりがくつろげる空間づくりをしている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 居室の表札やトイレの表示、個々の自立度、見当識にも配慮している。また必要場所の手摺りの設置やL字ベッド柵、椅子や机の高さ、足置き代など、個々の能力に応じて工夫している。</p>	